

# 令和4年度 館林市立第二中学校 学校評価一覧表(第1回)

R4.8.1現在

※表中およびグラフ中の数値の単位は「%」 表中の数値は「とてもそう思う」「そう思う」の合計

評価対象	評価項目	具体的数値項目	保護者	生徒	自己評価	グラフは左から「とてもそう思う」「そう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」	改善策
I 保護者等との連携	学校は、連絡や生徒の様子等を保護者にきめ細かく伝え、理解を得ている。	○学校や生徒の様子が分かると感じている保護者が80%以上。	89.8		A		○学年通信や配信アプリHome & Schoolの情報提供のほか、行事や部活動の大会結果などウェブページにアップしていきます。また、学校からのたよりは、必ず保護者に見せるように指導します。さらに、Home & Schoolの受信状況の確認と連絡を徹底していきます。
	学校は保護者が連絡や相談をしやすいと感じる雰囲気づくりに努めている。	○学校は連絡や相談がしやすいと感じている保護者が80%以上。	84.4		A		○日々子ども一人一人の小さな変化を見逃さず、学校での様子を詳細に家庭に伝え、家庭と学校とで連携する体制をつくって、子どもの健やかな成長に尽力します。
II 確かな学力	学校は、生徒が分かり、満足感や達成感を味わえる授業づくりを行っている。	○授業が分かると感じている生徒が80%以上。	64	87	A		○学習への見通しをもたせる工夫を行うことで、単元を通して達成感や満足感を味わうことができるような授業づくりに努めます。研修主任や学力向上COが定期的に授業を参観し、助言を行います。
		○授業が楽しいと感じている生徒が80%以上。	64	81.4	A		○学んだことが日常生活で活用できると実感できるような学習課題や活動を設定することで、「できた、分かった」ことが楽しい授業づくりに努めます。
	学校は、生徒が授業をよりよく理解することができるように、ICTを効果的に活用した学習をしている。	○タブレットを使用することによって、「授業がわかりやすくなった」と答えた生徒が80%以上。	1年 88.3 2年 95.1 3年 88		A		○「効果的なICT機器の活用」を目指し、教師による実践事例を研修の中でお互いに紹介していきます。 ○ICTを効果的に使うため、その有用性をさまざまな場面で活用し、検証します。
	学校は、生徒に家庭学習の習慣が身に付くよう適切に指導している。	○家庭学習（塾等を含める）をしていると答えた生徒が80%以上。	64	68.8	B		○生徒それぞれに適した、効果的な学習方法<指導の個別化>を提示したり、生徒が自ら課題を設定する<学習の個性化>を進めるなど、家庭学習の質的量的充実を目指します。
III 豊かな心	学校は、生徒が自分から進んであいさつができるよう適切に指導している。	○自分から進んでしっかりとあいさつができる生徒が80%以上。	84.4	85.6	A		○教師による生徒への声かけや、学活・道徳等であいさつの意義を教えることにより、進んであいさつができるようになっていきます。さらにと気持ちのよいあいさつができるように引き続き、教師から元やかな模範となるあいさつに日々取り組んでいきます。
	学校は、いじめのない学校づくりを推進している。	○学校生活が楽しいと感じている生徒が80%以上。	89.2	87.9	A		○個々の生徒が合唱コンクールや学級での活動、部活動を通して、生徒の役割を明確にし、それを成し遂げ、自己有用感を味わえるようするための支援、声かけを行います。
		○学校のいじめへの対応や対策が十分であると思う生徒・保護者が80%以上。	89.2	79.6	B		○未然防止策として、生徒主体のいじめ防止の活動を生徒会を中心に取り組みます。○道徳や学活などを通して、いじめについて考える場を設けて、いじめは許されない行為だということを指導していきます。 ○本校のいじめ防止基本方針を常に検証しながら早期発見・早期対応を全職員で心がけ、報告・連絡・相談を欠かさずに行い、生徒、保護者に寄り添う指導をします。
		○ケータイ、スマホ、ゲーム機等を毎日、午後9時以降学習以外で使っていない生徒が80%以上。	33.6	25.9	D		○学活や道徳等でケータイ、スマホの使い方について提案を行っています。近隣の小学校とも連携を取り、使い方の指導や、使いすぎによる日常生活への影響について小中で連携した指導を行っています。
	学校は、生徒が自己有用感を高めることのできるような支援を適宜行っている。	○学校生活において自分の役割果たし、みんなから認められるような自己有用感をもっている生徒が80%以上。		76.3	B		○自己有用感をもっている生徒は増えてきています。生徒の活躍の場をつくり、賞賛したり、認めたり、励ましたりすることで、さらに自己有用感を高められるよう支援していきます。

IV	活動の意欲	学校は、生徒が行事や部活動に対して、主体的に活動できるよう工夫している。	○行事(JO,合唱コンクール等)や部活動に積極的かつ向上心をもって参加している <b>生徒が80%以上</b> 。	90.2	92.1	A	生徒 53 40 7 1 0% 20% 40% 60% 80% 100%	○学校行事は、生徒たちの健康を第一に配慮しながら、可能な実施方法で行っていきます。学校行事や部活動の意義や目的を伝え、積極的に参加できる生徒の育成に努めます。
		学校は、生徒が協力して清掃や係、当番活動に取り組むよう努めている。	○清掃や係、当番活動に友達と協力して進んで取り組んでいる <b>生徒が80%以上</b> 。	清掃 90.2	A	生徒 33 57 8 1 0% 20% 40% 60% 80% 100%	○学活や道徳等で学校やクラスのために活動することについて考える場を設けたり、日常の清掃活動等に進んで取り組んでいる生徒の姿を認め、声かけを行ったりしていきます。コロナ禍の影響もあり、多くのボランティア活動が中止となっていました。今後は情勢を見ながら、可能なボランティア活動を実施していきます。	
			係当番 85.6			A		生徒 41 45 13 1 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
V	健康・体力	学校は、生徒が毎日朝食や適切な睡眠をとって登校できるよう具体的な働きかけを行っている。	○毎日必ず朝食をとっている <b>生徒が80%以上</b> 。	92.4	90.7	A	生徒 74 16 7 2 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	○掲示物や保健だより、Gライフログ等を活用し、朝食の大切さについて啓発をしていきます。現在流行中の感染症や熱中症の予防の為に規則正しい生活で免疫力を高めることの重要性を理解し、実践していけるよう引き続き、発達段階に応じた生活指導を続けていきます。
		学校は、進んで体力の向上を図ろうとする生徒の育成に努めている。	○週平均1日6時間以上の睡眠をとっている <b>生徒が80%以上</b> 。	84.4	82.9	A	生徒 50 33 13 4 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	○体調不良で来室する生徒の中には、睡眠不足が原因と考えられる者もあり、睡眠の大切さについてその都度個別の指導を行っています。また、質の良い睡眠がとれるよう、睡眠時の環境の整備や睡眠前にスマートフォンなどの使用を控えることの重要性を保健だよりや保健委員会の取り組みを通して啓発していきます。
			○日常的に進んで自分の体力を向上させようとしている <b>生徒が80%以上</b> 。				83.3	
VI	安全確保	学校は、交通事故防止、火災・地震・不審者対策など、安全教育の徹底を図っている。	○交通ルールを守り、ヘルメットをかぶって登下校している <b>生徒が100%</b> 。	97.9	99.5	B		生徒 86 14 0 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%
		学校は、家庭や地域と連携して、交通安全指導や通学路の点検・パトロールを適切に行っている。	○災害や、火災発生時の避難の仕方に関する態度を身に付けている <b>生徒が80%以上</b> 。	90.6	A	生徒 51 40 7 2 0% 20% 40% 60% 80% 100%	○避難訓練の際にはさまざまな状況を想定し、避難経路の工夫など、有事の際に迅速かつ安全な避難をし、危機回避能力や判断力を高め、自分の命を自分で守れるようにしていきます。	
			○自分の通学路の事故等が起こりそうな危険箇所を知っている <b>生徒が80%以上</b> 。			80.3		A
VII	進路・生き方	学校は、生徒の主体的な進路決定に向けて、夢や希望をはぐくむキャリア教育の充実を図っている。	○学校の登下校の安全指導が適切であると感じている <b>保護者が80%以上</b> 。	98.9	A		保護者 36 63 1 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	
			○自分の将来への夢や希望をもっている <b>生徒が80%以上</b> 。	65	75.8	B	生徒 40 36 18 6 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	○(1年生)職業適性検査を実施することで、自己の特性や適した職業を見つけさせ、自己の将来の夢や展望をもてるようにします。 (2年生)上級学校調べや立志式を通して、進学や将来の就労に向けての自己理解を深められるようにします。
		○親子で進路について話し合う機会を定期的に設けている <b>家庭が80%以上</b> 。	83.2	72.7	A	保護者 29 55 16 1 0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%	○(3年生)本校に近隣高等学校を招待し、講演をいただいたり、保護者向け進路説明会を行ったりすることで、家庭内で進路に対して話し合う機会を促していただきます。また、進路通信等を通して、情報を発信したり、面接練習を通して自己の特色を見つめたりできるようにしていきます。	